

2019年度TIFA総会

TIFA総会の開催日が決定しましたのでお知らせします。

TIFAの今後の活動を決める重要な会議ですので、ボランティア会員の方々は必ず参加されますようお願いいたします。

皆様の活発なご意見を期待しています。

開催日時：2019年5月18日(土) 15:00～17:00

場所：柴崎会館 1階多目的室(柴崎学習館ではありません。)

議題：

- ・2018年度 TIFA／各部 活動報告
- ・2018年度 会計決算報告／監査報告
- ・2019年度 予算案
- ・2019年度 TIFA／各部 活動計画
- ・その他

日本語教室木曜クラス研修会

2月14日に国際基督教大学日本語教育研究センター長 半田先生をお招きして「初心者に対する指導の在り方等について」研修を行いました。当日は西砂、土曜クラスからもおいいただき27名が参加しました。講義は先生と参加者の双方向の発言で進められ活発な意見がだされ楽しく学べたと思います。生徒を教えるに際しての留意点は要約すると以下のとおりです。

- ① 初級の生徒が理解できるように、教える側は発話を意識し、コントロールする。
- ② 生徒を子ども扱いしない。生徒は高学歴で知的レベルは高いのでi+1を心がける。(i)は自分を指す。
- ③ 生徒のニーズや興味を尊重する。
- ④ 生徒が既に持っている知識を活用し、スキーマを活性化させる。
- ⑤ 生徒自身が目標を決め、学習成果を可視化する。(自立学習のすすめ)

参考にしていただければ幸いです。



土曜教室 節分

2月2日(土)、土曜教室で恒例の節分が行われました。節分についてボランティアが受講生に簡単に説明をしたあと、4名のボラ



ンティアが鬼のお面を被り地下1階にある2つの教室と3階の教室を順番に闊歩しました。受講生達は、その鬼を相手に豆を撒き、節分気分を味わいました。この日、初めて豆撒きという行事を知った受講生も多く、驚きとともに大喜びでした。



西砂教室の近況

お正月明けの今年初めての教室への参加学習者はいつもの半分程度でとても少なく8、9名しかいませんでした。その日、学習会終了後に開かれた月例会では何か問題があるのだろうかという不安も提示されました。しかしその後2月になって新規参加希望の学習者がたくさん入ってきています。一喜一憂です。



寒い日の受付

西砂教室の学習者は主婦や学生もいますが技能実習生が中心になっている状況です。

4月施行の新政策に伴ってこの教室も何らかの影響を受けることが予想されますので教室の在り方などを今後の例会、懇親会などで考えていこうということになっています。

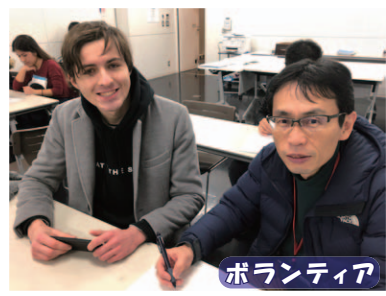
企画・イベント担当のボランティアでは言葉の勉強会だけでなく一緒に楽しめる機会をもっと増やしていくことも考えています。



土曜教室 ボランティア紹介

氏名：島田 和夫 男性 50代

住所：立川市柴崎町



ボランティア

TIFA入会時期：2017年2月

入会理由：以前、仕事で海外に駐在した事があり、その経験が、役にたてばと思い入会しました。日本語の習得だけではなく、日本の文化にも興味を

持ってもらえるように、接する事ができたらと思います。

今まで教えた受講生：東欧からの女性 20代、フランスからの男性 20代、カナダからの女性 20代等です。入会してまだ1年で、周りの方からサポートして頂き、授業しています。きちんとした日本語を教える事は、とても難しいと感じています。また、受講生が日本語能力試験に合格したと聞いた時などは、とても嬉しいです。

氏名：坂口 英治 男性 70代後半

住所：昭島市玉川町



ボランティア

TIFA入会時期：2012年

今まで教えた受講生：入会してすぐに台湾から来た女性を担当し、毎回、約2時間、日本語や英語で楽しく授業をすすめました。次は中国人夫婦、

軍人あがりの韓国人等の受講生を順次受け持ちましたが、自分の教え方が悪いせいか挨拶もなく短期間で来なくなり、少し悲しい気持ちになりました。現在は、中国人男性とベトナム人女性を担当していますが、2人とも日本語は上級クラスで日本語能力試験 N1 を目指しています。合格すれば給料もアップするとのこと一生懸命勉強しています。

氏名：杉本 茂 男性 70代前半

住所：立川市錦町



ボランティア

TIFA入会時期：2014年

入会理由：現役引退後、数ヶ月間、海外で生活しました。少しは外国語が解ると思っていましたが、ネイティブの会話には全くついていけず外国の人が、異国の言語を理解する

ことは大変だろうと思いTIFAに入会しました。

教室で心がけていること：受講生のレベルに合わせて、日常会話、出来る限り身近な話題を中心にし、丁寧語、尊敬語、謙譲語はなるべく早い時期が教えています。TIFAで受講生と出会うことは不思議なことだと感じています。民間レベルでの交流を大切にしたいと考えます。

氏名：葛 敦 男性 70代前半

住所：立川市富士見町

TIFA入会時期：2016年6月

入会した理由：立川で学んだ中国語を活かしながら日本語を教えたいと思ったため。

今まで教えた受講生：

- ① カンボジア男子と中国女子中学生に“みんなの日本語”をテキストにして教えました。カンボジア男子は家庭の事情で、女子中学生は進学の為に帰国しました。
- ② 中国人30代女性（お子さん連れ）に“みんなの日本語”をテキストにして教えました。覚えは早いけれども来たり来なかったりで、残念な気持ちでした。
- ③ 中国人40代男性（会社員）は日本語能力検定N2を目指しており、本人が持参した教科書に従い教えています。会社内の言葉遣いについて質問されることもあります。TIFAの行事やレクリエーションに積極的に参加し交流を図っています。



ボランティア

氏名：大西 一光 男性 40代

住所：立川市幸町

TIFA入会時期：2017年2月

入会理由：立川市広報のボランティア募集を見つけ、妻と一緒に見学に行き、お手伝いができるならと思い入会しました。

今まで教えた受講生：

中国 男性 20代、と女性 20代（夫婦） 2年位

どの様に教えているか：音読して意味を知ることが大切と思い、例文などを声に出して読んでもらい、自分も読み聞いてもらいます。その後に、読んだ文を説明して、理解してもらう様に進めています。現在は教室にある教材を使用していますが、最初は、受講生が持参した問題集（日本語読解 N1相当）で教えていました。日本の文学作品の一部や新聞の記事が最初であり、それに対する設問がいくつか続きました。その設問を解いてもらい、その後に答え合わせと解説という順で進めました。なかなか難しい問題集で、答えることができるのですが、なぜその答えになるのかと説明するのに難しいことがあり、四苦八苦しています。



ボランティア

武蔵野市国際交流協会の紹介

公益財団法人武蔵野市国際交流協会（以下、「MIA」）は、1989年任意団体として設立され、20年間にわたる活動の後2009年に一般財団法人の法人格を取得し、2010年に公益財団法人に移行しています。今年は設立30周年にあたります。

武蔵野市では「海外交流」事業は市が行い、「在住外国人支援」事業はMIAが行うという役割分担になっています。海外交流事業について見てみると、1986年の米国テキサス州ラボック市をかわきりに、中国・北京市、ロシア・ハバロフスク市、ルーマニア・ブラショフ市、韓国・忠州市、ソウル特別市江東区と、1980年代から90年代にかけて交流都市関係を確立し、青少年を中心に派遣・交流事業が展開されています。これだけ多くの国外都市と交流を行うというのは武蔵野市の特徴だと思いますが、MIAの設立時期や、市の設置している「国際交流平和基金」がMIAの財政に寄与していることなどを考えると、一定の役割分担を行いながら、市とMIAの事業が車の両輪となって多文化共生のまちづくりを進めていると言えると思います。

また、MIAのもう一つの特徴は、会員数が多いことです。2019年2月1日現在、会員数は581人ですが、その他に72カ国778人の外国人会員（会費無料）が登録されています。外国人会員には、多言語（日本語、英語、中国語、スペイン語）で、MIAのイベントや相談会、武蔵野市内の催し物や防災訓練などの生活情報を掲載したニュースレターが年4回送られています。不特定多数の在住外国人に情報発信するだけではなく、登録外国人会員を中心に情報発信するからこそ、MIAの様々な活動に外国人会員に参加・協力してもらうなど顔の見える関係ができたり、「むさしの国際交流まつり」など多くの方が参加してくれるイベントを企画・運営できる環境づくりにつながっていると思います。

——生活支援と地域交流の日本語学習——

日本語教室については、開設当初から教室活動とマンツーマン活動を組み合わせて実施しています。週1回の教室活動は3人前後のグループに分かれて実施しますが、参加者のうち希望する人に対してはさらに「マンツーマン活動」として1対1でレッスンします。それもいわゆる座学ではなく、市内のコミュニティーセンター、コーヒーショップ、あるいはスーパーマーケットなど



日本語スピーチ大会

で生活に役立つ日本語を学ぶという内容です。

日本語の文法的知識を獲得するというより、生活に必要な日本語を知り、地域の方々との関係づくりをめざした活動だといえます。ボランティアのみなさんが「日本語交流員」と呼ばれているのも、この活動が外国人の方々の地域参加と生活情報提供を目的とした「日本語での市民交流活動」だからだそうです。



むさしの国際交流祭り

——多様なコミュニケーション支援——

紙媒体のニュースレター、ホームページ、SNSの活用、通訳者の派遣・翻訳など、多言語によるさまざまな情報提供が行われていますが、ユニークなのはFM放送の活用です。むさしのFMラジオで、月曜日から金曜日まで5分間番組「NEWS from MIA」でMIA事業のお知らせや在住外国人向け生活情報を4言語で放送し、第4土曜日の30分番組「MIAプラザ」ではスタジオに外国人ゲストを迎えてトーク番組を生放送しています。



多言語 FM 放送

阪神・淡路大震災の際には、発災直後から、在住外国人の多い神戸市長田区を中心に、ミニFM「エフエムわいわい」が多言語での情報提供を行いました。平時のFMラジオの活用は、首都直下地震を見すえた多言語での情報提供の可能性を秘めているのではないのでしょうか。



防災啓発活動

この他、MIAは多文化共生の地域づくりのさまざまなプログラムを実施しています。紙幅の関係で逐一ご紹介はできませんが、担当職員の方は、今後の課題として「外国ルーツの子どもたちの支援の充実」や「災害時の外国人支援の広域対応」を挙げてくださいました

2019年度 日本語教室スケジュール

柴崎学習館 木曜教室 (午前10:00~11:30)					
月	日				
	第1週	第2週	第3週	第4週	第5週
4	4	11	18	25	
5	×	9	16	×	30
6	6	13	20	27	
7	4	11	18	25	
8	1	×			
9	5	12	19	26	
10	3	10	17	24	31
11	7	14	21	28	
12	5	12	19	×	
1	×	×	16	23	30
2	6	13	×	×	
3	5	12	19	×	

柴崎学習館 土曜教室 (午後7:00~8:30)					
月	日				
	第1週	第2週	第3週	第4週	第5週
4	6	13	20	27	
5	×	11	18	×	
6	1	8	15	22	29
7	6	13	20	27	
8	×				
9	7	14	21	28	
10	×	12	19	26	
11	×	9	16	23	30
12	7	14	21	×	
1	×	11	18	25	
2	1	8	15	22	×
3	7	14	21	28	

西砂学習館 西砂教室 (午後7:00~8:30)					
月	日				
	第1週	第2週	第3週	第4週	第5週
4	6	13	20	27	
5	×	11	18	×	
6	1	8	15	22	×
7	6	13	20	27	
8	×				
9	7	14	21	28	
10	5	×	19	26	
11	2	9	16	×	30
12	7	14	21	×	
1	×	11	18	25	
2	1	8	15	22	29
3	7	14	21	28	

土曜教室 ひな祭り

3月2日、ひな祭りのイベントとして、お手玉検定協会・立川お手玉の会の指導のもと「お手玉遊び大会」が開かれました。当日参加した36名の受講生を3グループに分け、お手玉の指導を受けながら頑張りました。級位認定の方法は、10級から1級まで、それぞれの級で、①使用するお手玉の数、②お手玉の遊び方、③お手玉を上げる回数、④お手玉をしながら唄う歌(うさぎ、シャボン玉、どんぐりころころ等)が決められており、一番やさしい10級から始めて、一番難しい1級を目指して次々と挑戦するというものです。途中、クリア出来なかった級がその人の認定級になり、最後の1級までクリアできた人は1級ですが、各グループに数人いたようです。皆さんそれぞれ級認定書を貰いました。日本古来のお手玉遊びを、物珍しそうに、笑いながら行いながらも一生懸命でした。最後に、皆でジャンケンの勝ち抜きを行い、勝った人にボランティア手作りのひな人形が授与されました。



TIFA会員動向

【入会者】

木曜教室、土曜教室：なし
西砂教室：段村 優介

【退会者】

木曜教室：なし
土曜教室：佐藤 英一
西砂教室：大橋 由貴

【休会者】

木曜教室、土曜教室：なし
西砂教室：古川 朋陽、古川 寛

今後の予定

- ・木曜教室 開講日：4月4日(木)
- ・土曜教室、西砂教室開講日：4月6日(土)

連絡

各部ホームページ

立川国際友好協会
<http://tifa-class.net>



TIFA企画
<http://tifa-k.net>



西砂教室
<http://tifa-n.net>



TIFA会報には掲載していない行事や数多くの写真が掲載されています。ぜひご覧ください。